

第2章 調査結果

<<分析にあたって>>

- ① グラフ・表中の％は、少数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを示しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ② アンケートには前半・後半があり、前半はQ1-1～Q1-22、後半はQ2-1～Q2-21と表記しています。設問はQ1-2(後半はQ2-2)から、グラフは図1-2(後半は図2-2-a)から開始しています。
- ③ Q1-3、Q1-11、Q2-2の結果の「年代」、Q1-2の「性別」はこの第3回消費生活eモニターアンケート調査における回答結果であり、第1章の「調査の概要」に含まれる、アンケート回答者からモニター登録時にいただいた内容とは異なる場合があります。

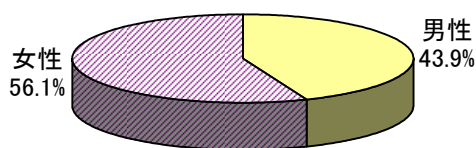
<アンケート前半>:回答者173名

1. 回答者の属性

Q1-2 性別

男性	76名
女性	97名

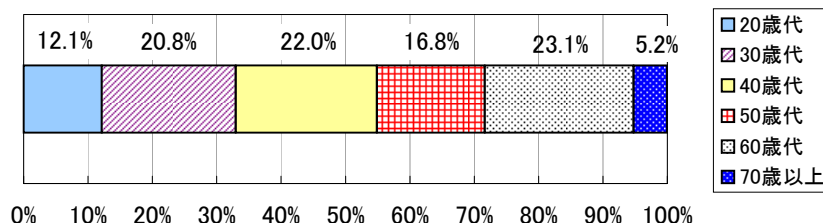
図1-2 性別



Q1-3 年代

20歳代	21名
30歳代	36名
40歳代	38名
50歳代	29名
60歳代	40名
70歳以上	9名

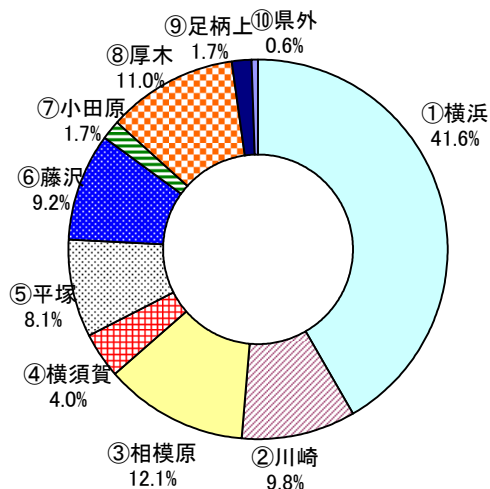
図1-3 年代



Q1-4 居住地区

①横浜	72名
②川崎	17名
③相模原	21名
④横須賀	7名
⑤平塚	14名
⑥藤沢	16名
⑦小田原	3名
⑧厚木	19名
⑨足柄上	3名
⑩県外	1名

図1-4 居住地区



<地区の区分>

- ① 横浜市
- ② 川崎市
- ③ 相模原市
- ④ 横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町
- ⑤ 平塚市・伊勢原市・秦野市・大磯町・二宮町
- ⑥ 藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町
- ⑦ 小田原市・箱根町・湯河原町・真鶴町
- ⑧ 厚木市・海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・愛川町・清川村
- ⑨ 南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町
- ※ ⑩ 県外は、モニター登録後に県外にお引越をされた方

Q1-5 同居家族 及び Q1-6 世帯構成

同居家族数は「3人」が最も多く、つづいて「2人」と「4人」となった。

世帯構成は、2世代同居家族が57.8%で最も多く、つづいて夫婦世帯が30.1%、単身世帯が6.4%となった。

図1-5 同居家族数(回答者自身を含む)

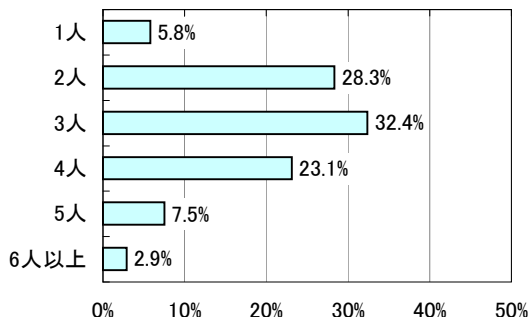
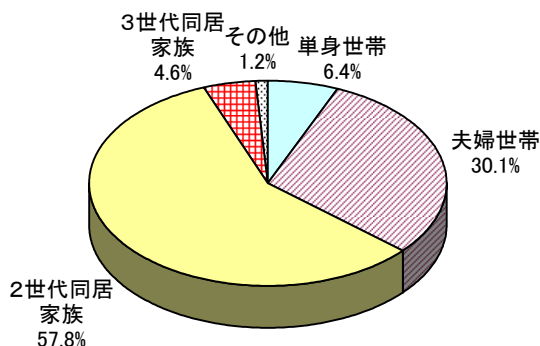


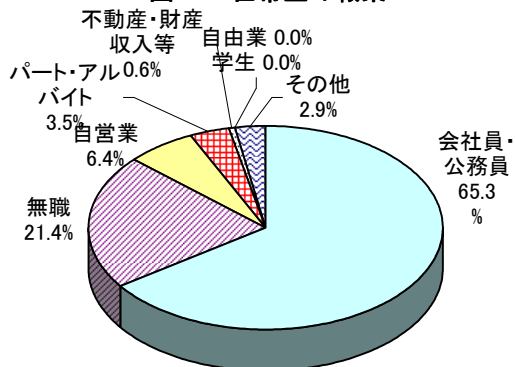
図1-6 世帯構成



Q1-7 世帯主の職業

世帯主の職業は、会社員・公務員が65.3%で最も多く、次に無職が21.4%、自営業が6.4%だった。

図1-7 世帯主の職業



Q1-8 世帯主以外の就業者の有無 及び Q1-9 その職業

世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯は49.1%で、その85名について主な仕事は、「パート・アルバイト」が43名、「会社員・公務員」が37名だった(複数回答可)。

図1-8 世帯主以外に収入を得ている人の有無

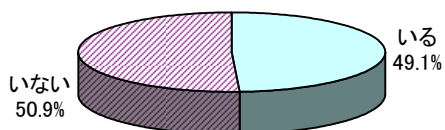
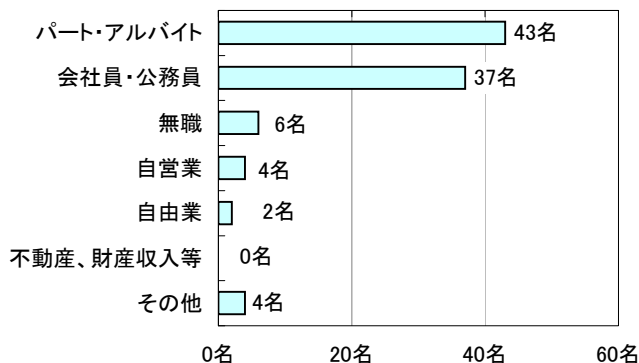
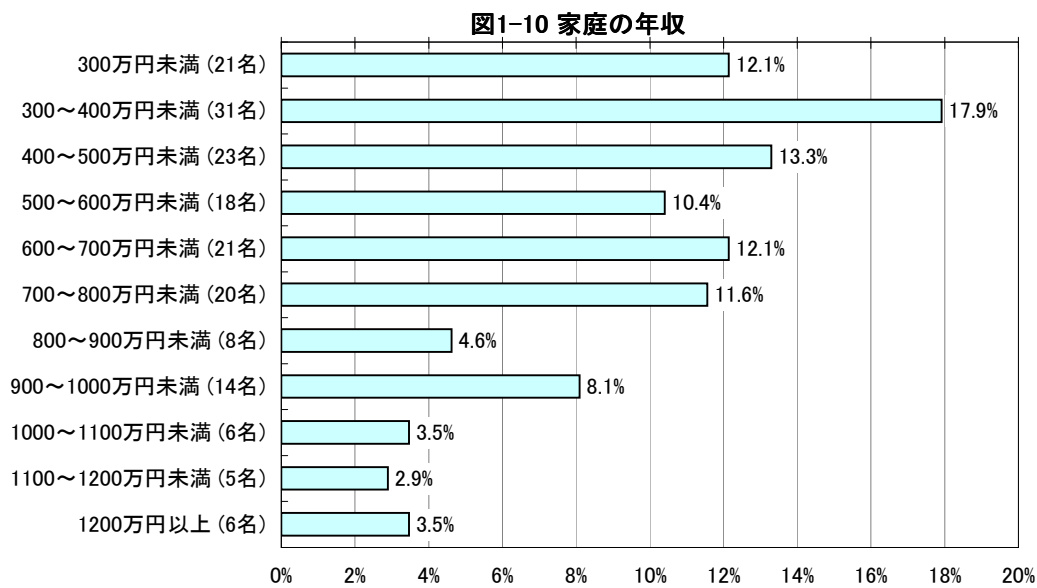


図1-9 世帯主以外に収入を得ている人の職業 (複数回答、総数96名)



Q1-10 家庭の年収

家庭の年収は、「300～400万未満」が最も多く、つづいて「400～500万未満」、「300万未満」、「600～700万未満」が多かった。

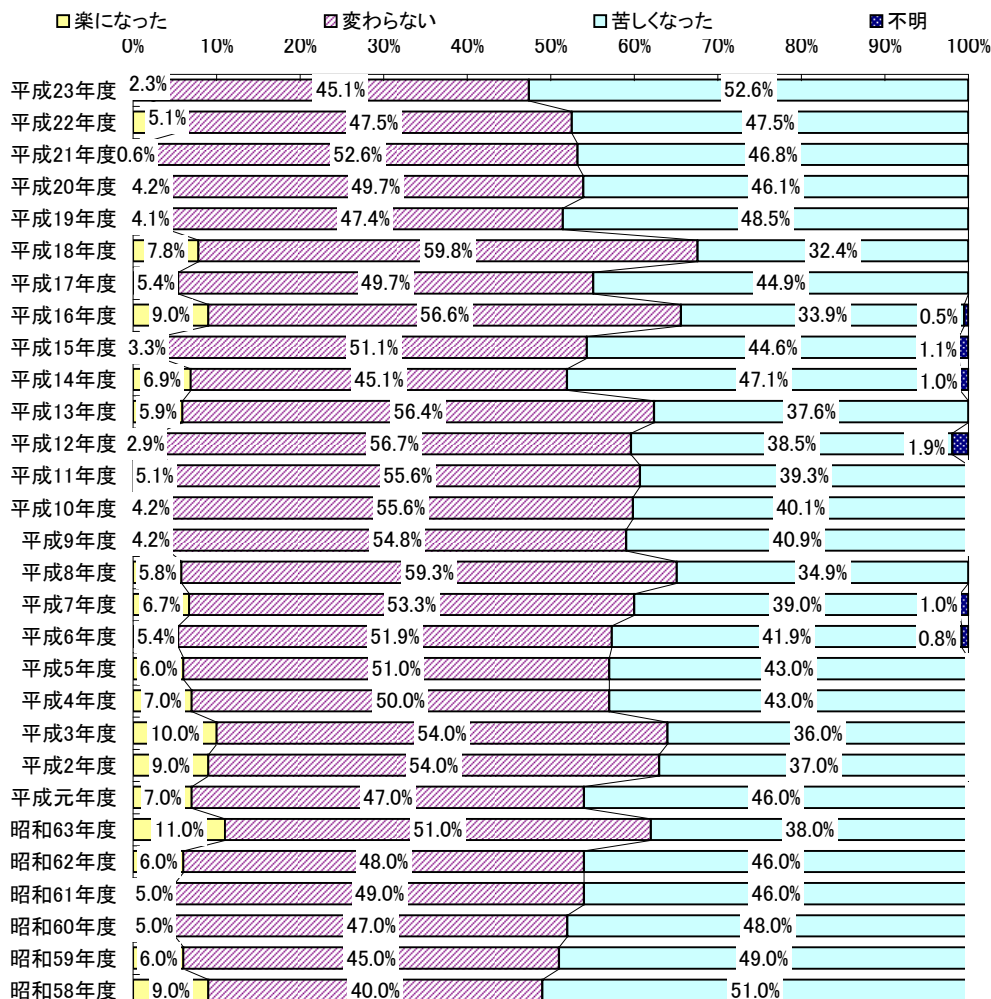


2. 暮らしむきと生活意識

Q1-11 暮らしむきの意識

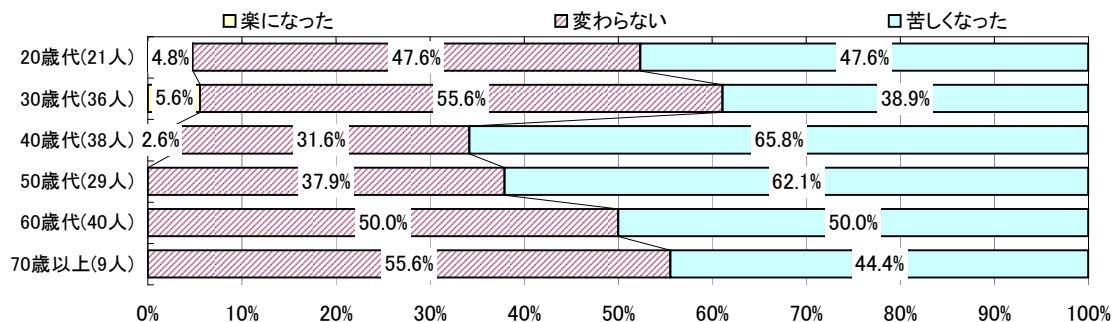
昨年の同時期と比べてご家族の暮らしむきがどうなったかという設問については、「苦しくなった」が5.1ポイント増加して52.6%で最も多かった。「楽になった」は昨年と比べて減少して2.3%であった。

図1-11-a 暮らし向きの変遷



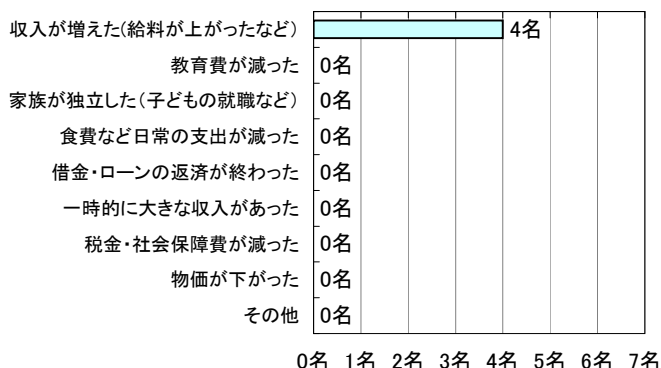
年代別に見ると、40歳代、50歳代では「苦しくなった」が6割台で「変わらない」に比べて多かった。30歳代、70歳以上では「変わらない」が5割台で「苦しくなった」より多かった。

図1-11-b 暮らし向き(年代別)



Q1-12 楽になった主な理由

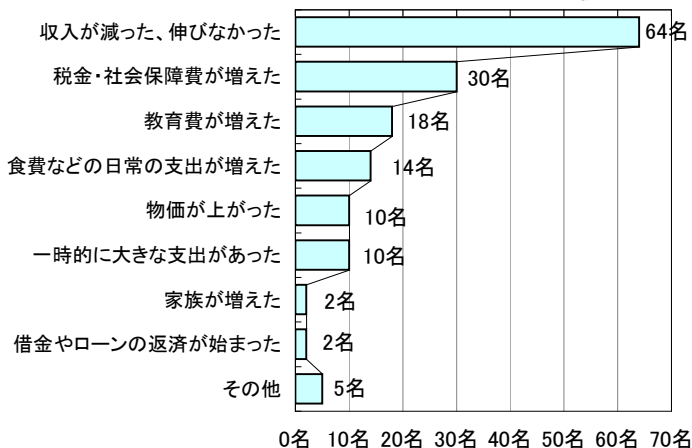
図1-12 楽になった理由(2つまで選択可)



Q1-11で「楽になった」と回答した4名に理由をたずねたところ、4名ともに「収入が増えた(給料が上がったなど)」という回答であった。

Q1-13 苦しくなった主な理由

図1-13 苦しくなった理由(2つまで選択可)

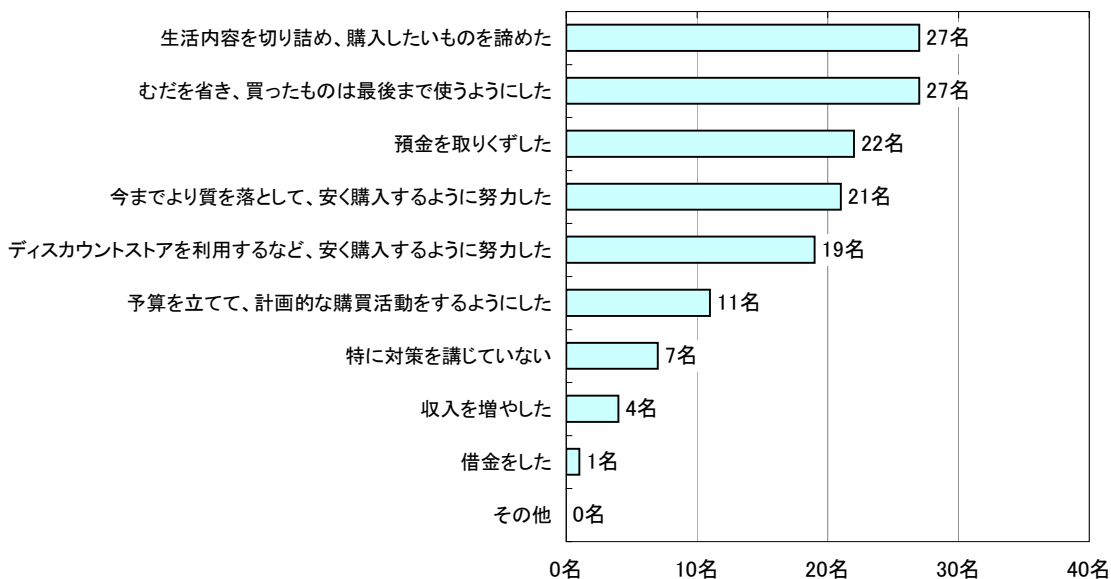


Q1-11で「苦しくなった」と回答した91名に理由をたずねたところ(2つまで選択可)、「収入が減った、伸びなかった」が64名で最も多かった。

Q1-14 苦しくなったことへの対策

Q11で「苦しくなった」と回答した91名に、講じた対策をたずねたところ(2つまで選択可)、「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」「むだを省き、買ったものは最後まで使うようにした」が27名で最も多く、次いで「預金を取りくずした」「今までより質を落として、安く購入するように努力した」が多い回答となった。

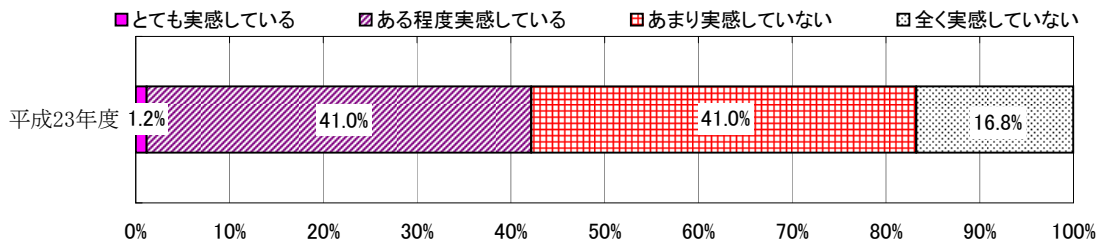
図1-14 苦しくなったことへの対策(2つまで選択可)



Q1-15 経済的豊かさの実感

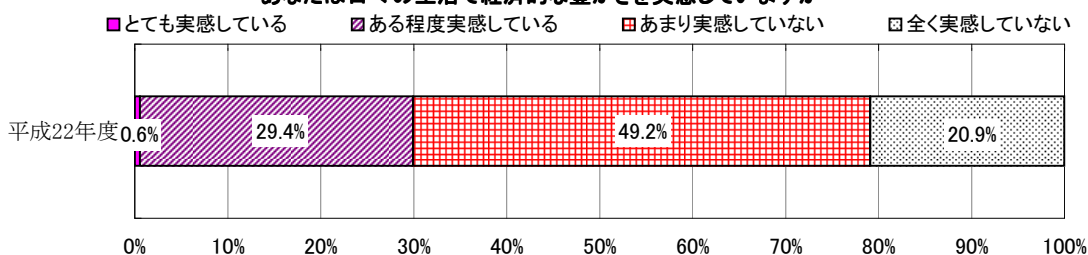
日々の生活で経済的な豊かさを実感しているかという設問については、「ある程度実感している」が11.6ポイント増加し41.0%と、「あまり実感していない」と並んで最も多くなった。「あまり実感していない」「全く実感していない」は合わせて、12.3ポイント減少し57.8%になった。

図1-15 経済的豊かさの実感



(参考:平成22年度調査)

あなたは日々の生活で経済的な豊かさを実感していますか

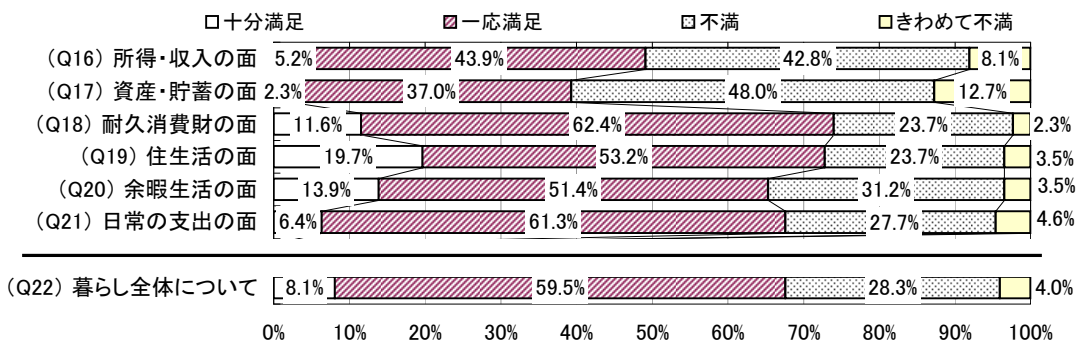


Q1-16～Q1-22 暮らしの各面の満足度

暮らしの各面での満足度については、「十分満足」と「一応満足」を合わせた比率が、「暮らし全体について」では6割台であった。

項目別では、「耐久消費財の面」「住生活の面」では7割台、「余暇活動の面」「日常の支出の面」では6割台であったが、「所得・収入の面」では4割台、「資産・貯蓄の面」では約4割と、ともに5割未満であった。

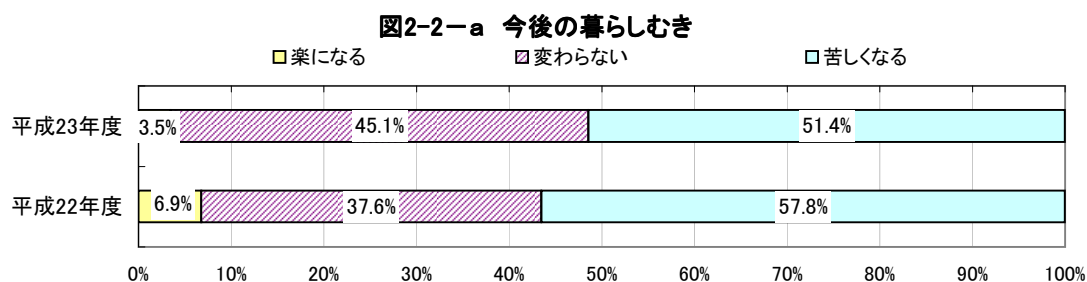
図1-16 暮らしの各面の満足度



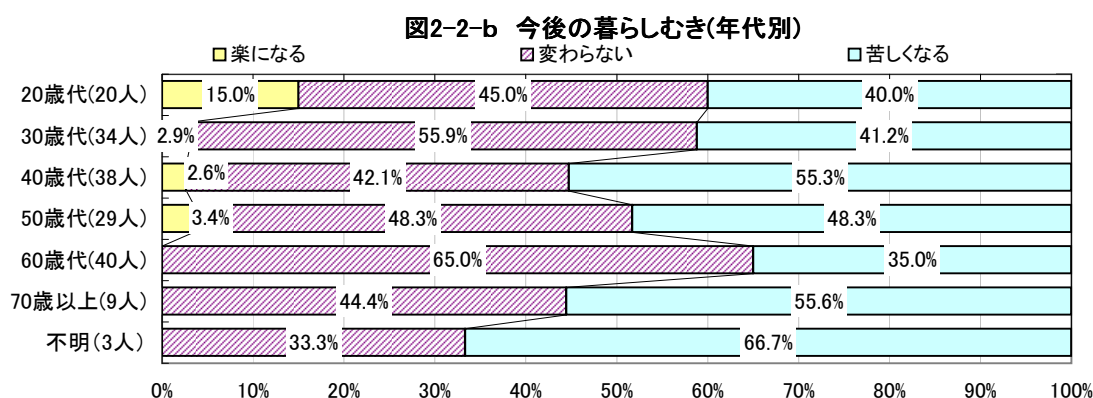
<アンケート後半>:回答者173名

Q2-2 今後の暮らしむき

今後の暮らしむきの見通しについては、「苦しくなる」が昨年度と比べて6.4ポイント減少して51.4%で最多であった。



今後の暮らしむきの見通しを年代別に見ると、「苦しくなる」と回答した人の割合は、70歳以上・40歳代で5割を超えた。20歳代・30歳代・60歳代で「変わらない」が「苦しくなる」を上回った。



※「不明」は前半のアンケート(年代を問う設問を含む)を未回答としている回答者

Q2-3～2-5 「Q2-2」の回答理由

Q2-2で回答した理由をそれぞれたずねたところ、以下のとおりだった。(自由記入、要約・抜粋)

<回答＝楽になる> 3.5%

- * 子どもの就職
- * 収入が増えるため
- * 仕事が順調なため

<回答＝変わらない> 45.1%

- * 仕事・収入は増減しない予定
- * 子どもの就学状況が当面変わらない
- * 経済は良くも悪くもならない
- * 生活パターンは変わらない
- * 健康だから

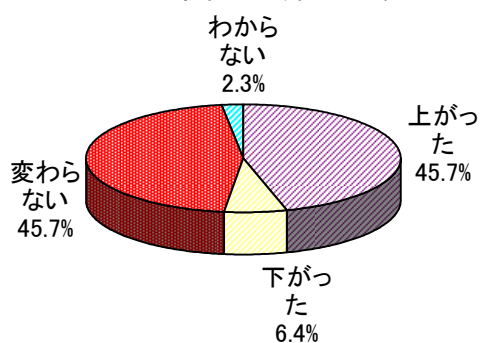
<回答＝苦しくなる> 51.4%

- * 教育費の増加
- * 社会保障費の増加
- * 住居の購入
- * 物価の高騰
- * 税金が上がる
- * 仕事・給与の削減
- * 家族の失業

3. 物価と家計について

Q2-6 物価の上昇感・下落感

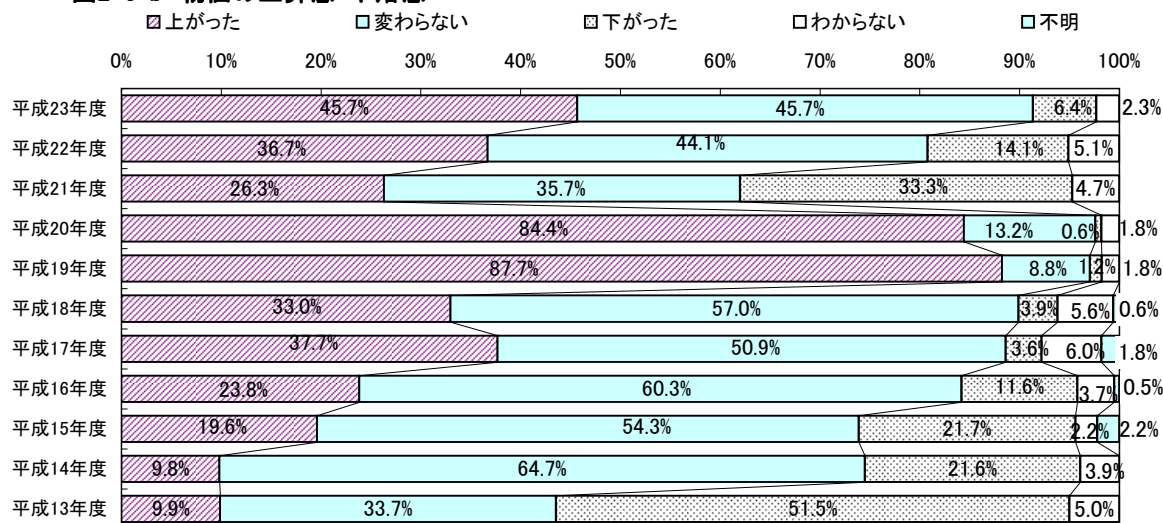
図2-6-a 物価の上昇感・下落感



この1年間の物価についてどのように感じているかについては、「上がった」と「変わらない」がともに45.7%だった。「下がった」は6.4%であった。

物価の上昇感・下落感について10年前（平成13年度）と比較してみると、「上がった」は4倍以上に増えており、1年前（平成21年度）との比較では約10ポイント増えている。平成16年度以降では、平成21年度を除いて毎年「上がった」が「下がった」を上回っている。

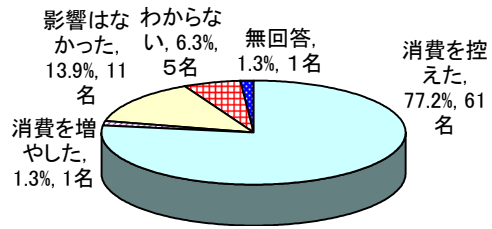
図2-6-b 物価の上昇感・下落感



Q2-7 物価上昇の影響

Q2-6で「上がった」と回答した79名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「消費を抑えた」が77.2%で最も多かった。

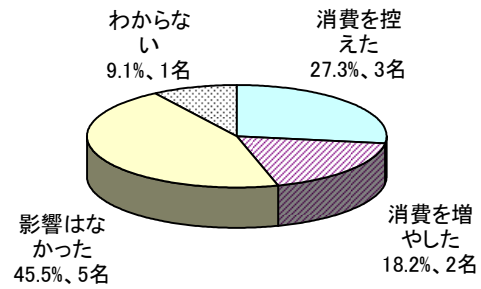
図2-7 物価上昇による消費傾向
(総数79名)



Q2-8 物価下落の影響

Q2-6で「下がった」と回答した11名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「影響はなかった」が5名 (45.5%)で最も多かった。

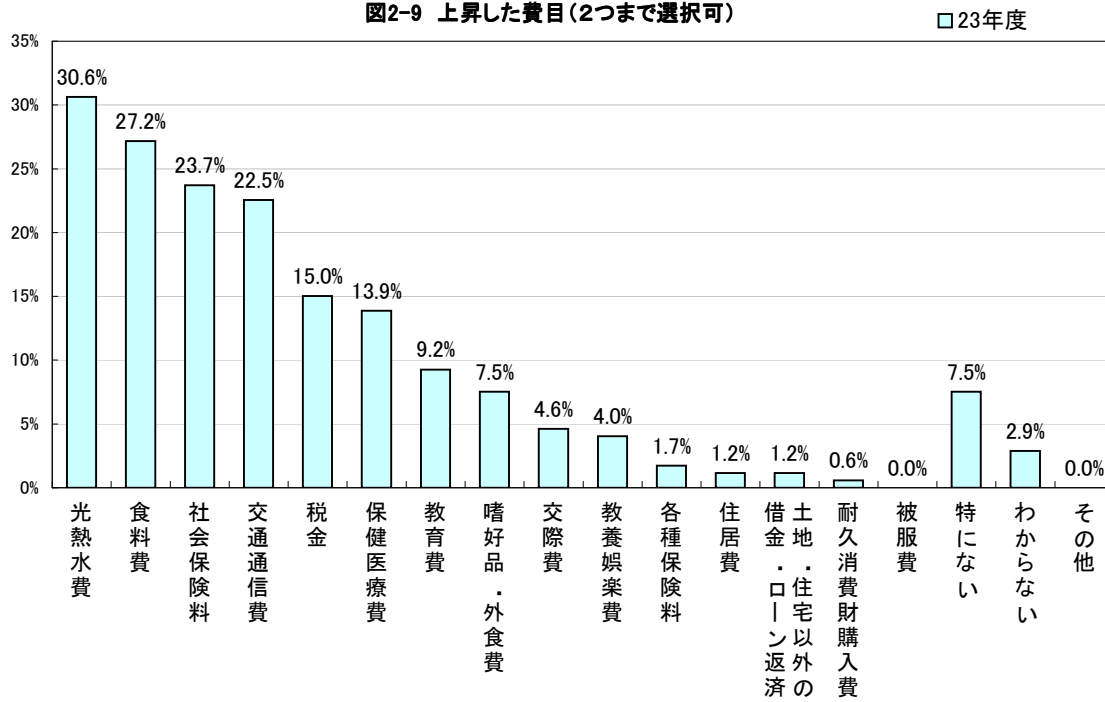
図2-8 物価下落による消費傾向
(総数11名)



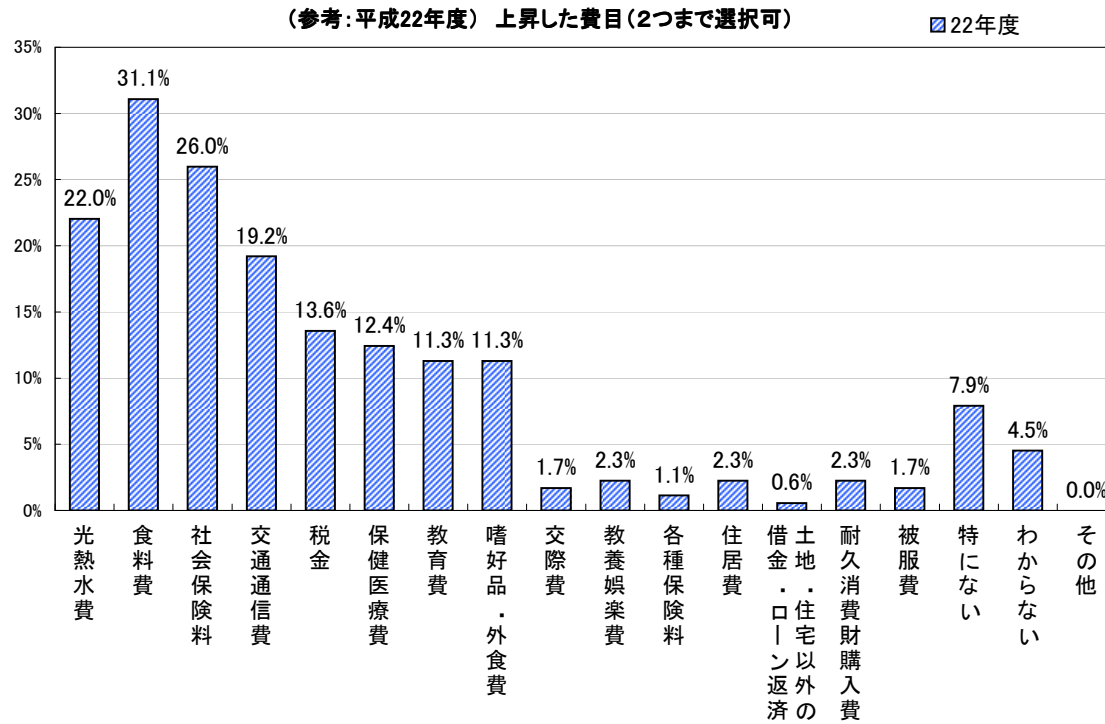
Q2-9 上昇した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に上がったと思うか(2つまで選択可)については、「光熱費」が昨年から8.6ポイント増加して最多となり、次いで「食料費」「社会保険料」「交通通信費」となった。

図2-9 上昇した費目(2つまで選択可)



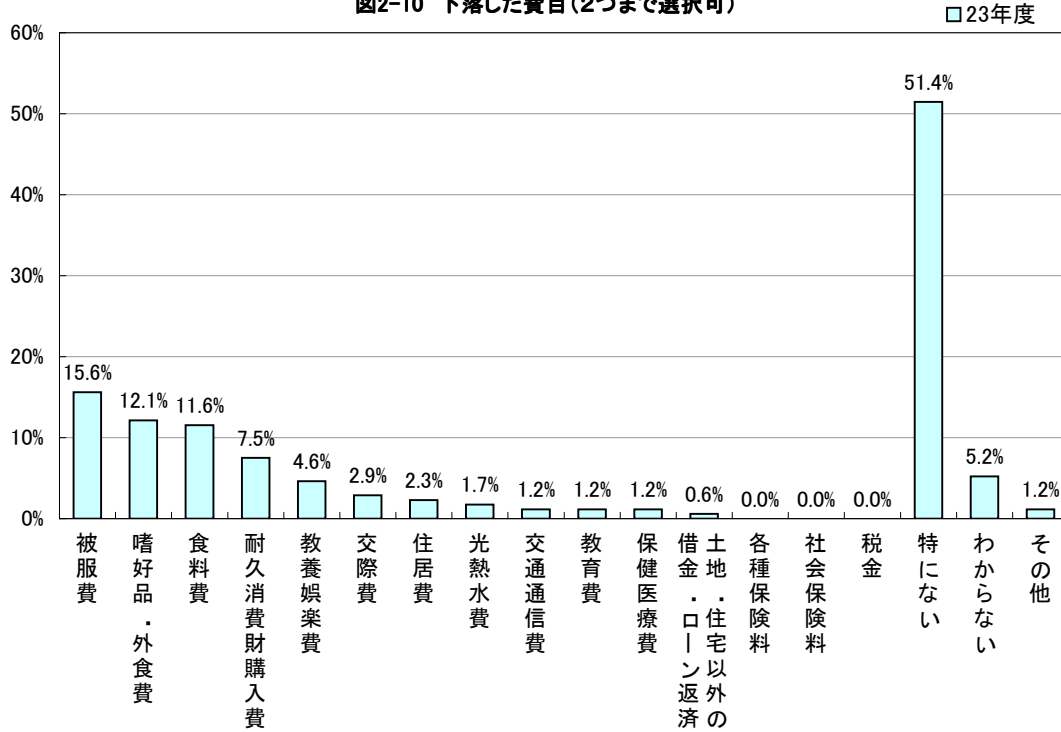
(参考:平成22年度) 上昇した費目(2つまで選択可)



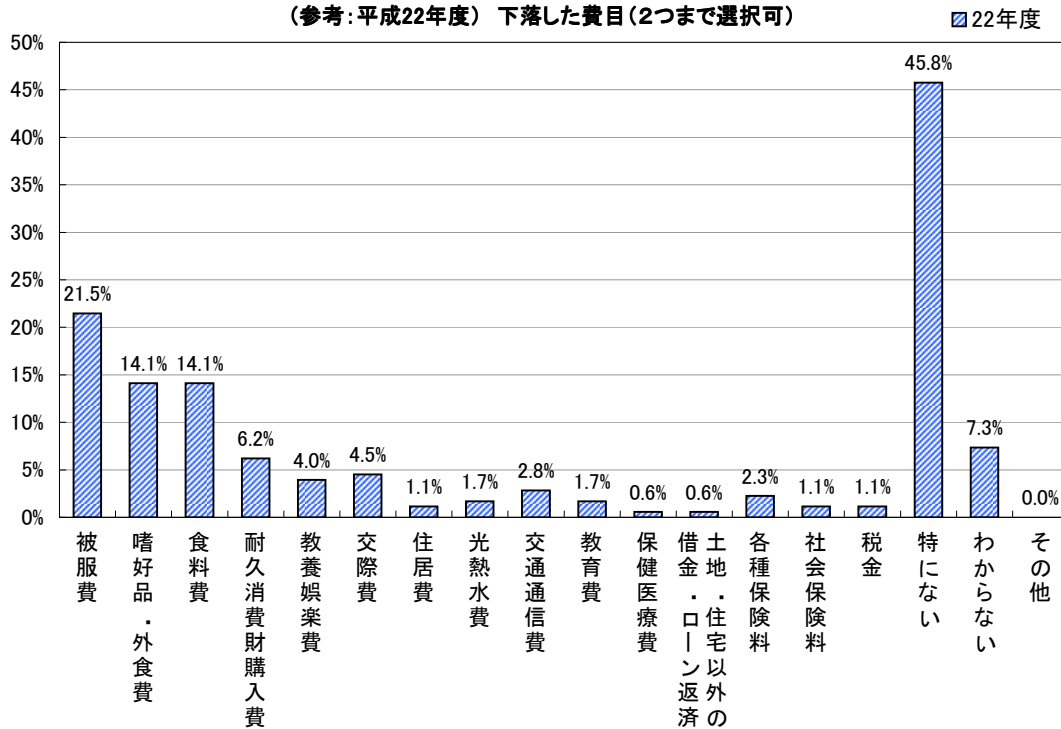
Q2-10 下落した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に下がったと思うか(2つまで選択可)については、「特にない」が51.4%で最も多く、次いで「被服費」が15.6%、「嗜好品・外食費」が12.1%、「食料費」が11.6%となった。

図2-10 下落した費目(2つまで選択可)



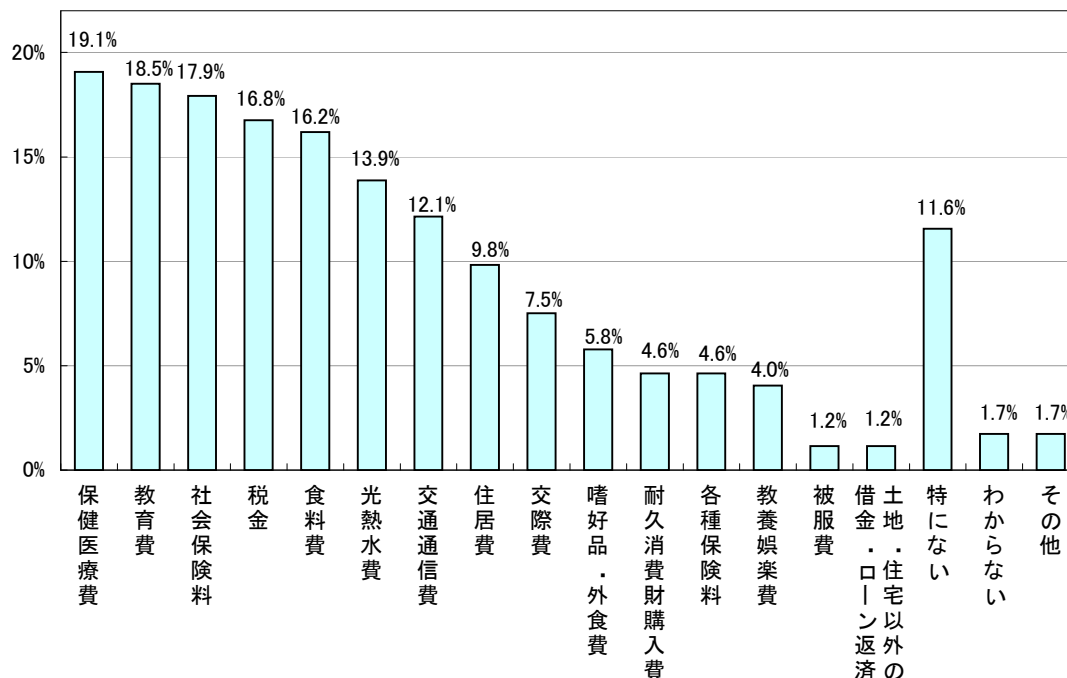
(参考:平成22年度) 下落した費目(2つまで選択可)



Q2-11 家計を圧迫している費目

支出面で、特に増えて家計を圧迫している費目(2つまで選択可)については、「保健医療費」が19.1%で最多であり、次いで「教育費」が18.5%、「社会保険料」が17.9%、「税金」が16.8%、「食料費」が16.2%であった。平成22年度に最多の回答であった「特にない」は8ポイント以上減少して11.6%になった。

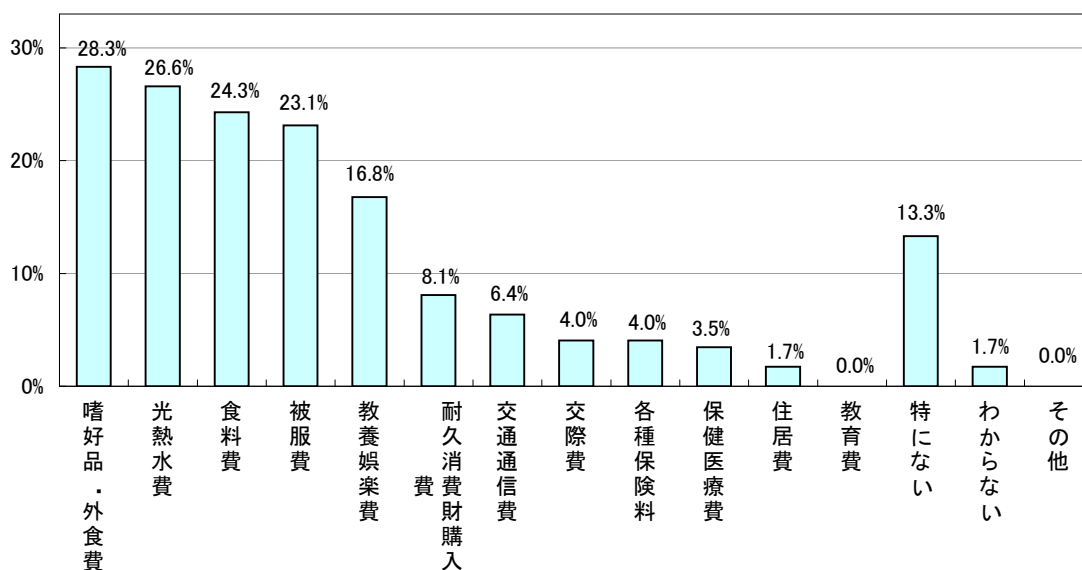
図2-11 家計を圧迫している費目(2つまで回答可)



Q2-12 切り詰めた費目

支出面で、特に家計で切り詰めた費目(2つまで選択可)については、「嗜好品・外食費」が28.3%で最も多く、次いで「光熱水費」が26.6%、「食料費」が24.3%であった。

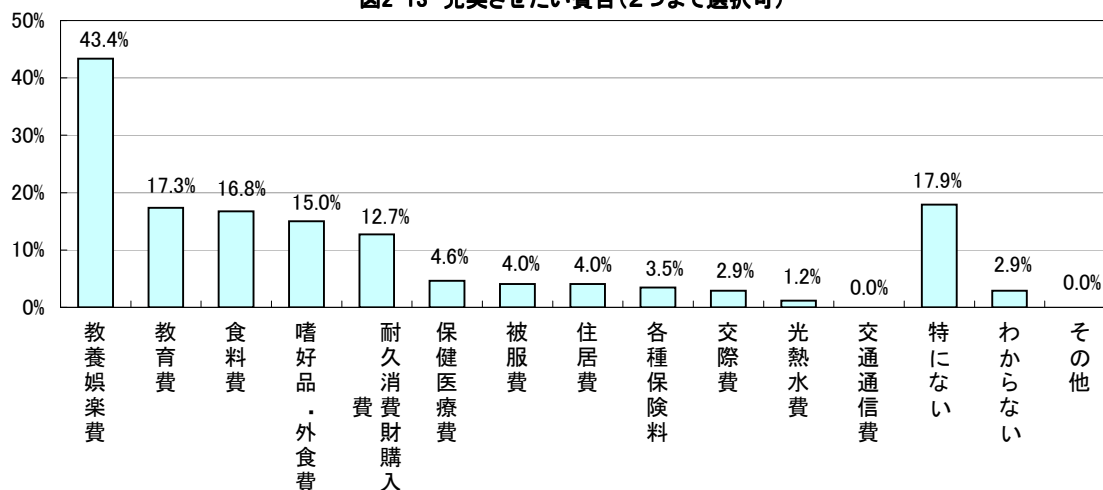
図2-12 切り詰めた費目(2つまで選択可)



Q2-13 充実させたい費目

今後、支出面で充実していきたいと思う費目(2つまで選択可)については、平成22年度と同じく、「教養娯楽費」が最も多く(43.4%)、次いで「教育費」、「食料費」となった。

図2-13 充実させたい費目(2つまで選択可)



Q2-14 充実させたい費目に関する考え(自由記入) ～抜粋・要約～

Q2-13で充実させたいと回答した費目についての考えを聞いたところ、以下のとおりであった。(自由記入、抜粋・要約)

教養娯楽費 43.4%

- * 息抜き楽しみが必要。苦しい生活でもメリハリをつけておもいきり心の充実を
- * 教育関係は、浪費でなく広く社会への投資であり社会全体の向上につながると思う
- * 各種の無料講演会等で情報を収集し教養を高めていきたい
- * 老後に向かって、趣味など充実した時間をすごしたい。
- * 家族で年に2回くらいは、旅行に出掛ける余裕(金銭的・時間的)が欲しい。

教育費 17.3%

- * 今後の社会に対応できるように子供に教養を身につけさせておきたい
- * 子供たちに残せる財産の1つだから
- * 子供たちの充実した生活のために使いたい
- * 子どもに対ししっかり教養を身につけさせ教育していくことが 今後大事になってくると考える

食料費 16.8%

- * 安全なものを選んでいきたい
- * 健康が一番なので、身体に良い物を選んで食料品を買いたい
- * 安全でおいしい物を食べたい

嗜好品・外食費 15.0%

- * 記念日くらいには外食したい
- * より充実感のある生活を目指したい。
- * 子供、孫への人生設計において「食育」だけは死守していきたい

耐久消費財購入費 12.7%

- * 省エネだけど、効果的な冷暖房設備や照明を取り入れたい
- * 家電製品をエコになるような製品に変えていきたいです

保健医療費 4.6%

- * 子どもの将来に必要な資金
- * いざという時に備え貯蓄していきたい。もちろん日頃の健康管理にも気をつけたい

被服費 4.0%

- * 流行りの服や靴を買いたい
- * 高価なものもいらぬし、高いものを食べなくてもいい。精神的に余裕のある生活をしたい

住居費 4.0%

- * 住宅ローンの繰り上げ返済を実行したい。家の老朽化によるリフォームをしたい
- * 暮らしやすい家にメンテナンスするため

各種保険料 3.5%

- * 子供が生まれるから
- * 生命保険について真剣に考えたい

交際費 2.9%

光熱水費 1.2%

- * 原発事故の関係で特に節電について考えていきたい。

交通通信費 0.0%

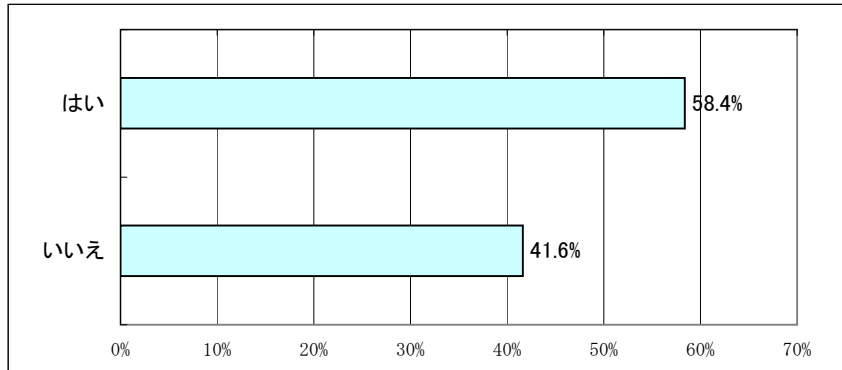
特にない 0.0%

わからない 0.0%

Q2-15 東日本大震災後、暮らし向きに変化があったか

2011年3月の東日本大震災後、暮らし向きに変化があったかをたずねたところ、「はい」が約6割であった。
内容について自由回答を求めたところ「節電を心がけるようになった」「食の安全を気にするようになった」「家族の絆を大切にするようになった」などの回答が多く得られた。

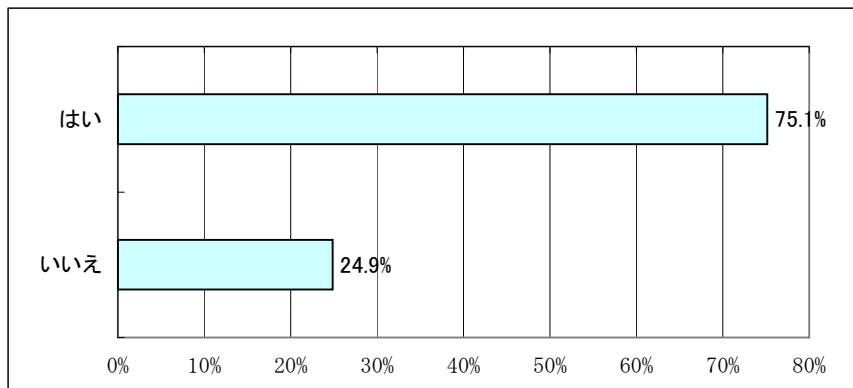
図2-15 東日本大震災後、暮らし向きに変化があったか



Q2-16 震災直後、品物が手に入らず困ったことがあったか

震災直後、品物が手に入らず困ったことがあったかをたずねたところ、「はい」が7割台を占めた。
内容について自由回答を求めたところ「電池」「水」「乳製品」「ガソリン」「トイレットペーパー」「納豆」「パン」「米」などの回答が多く得られた。

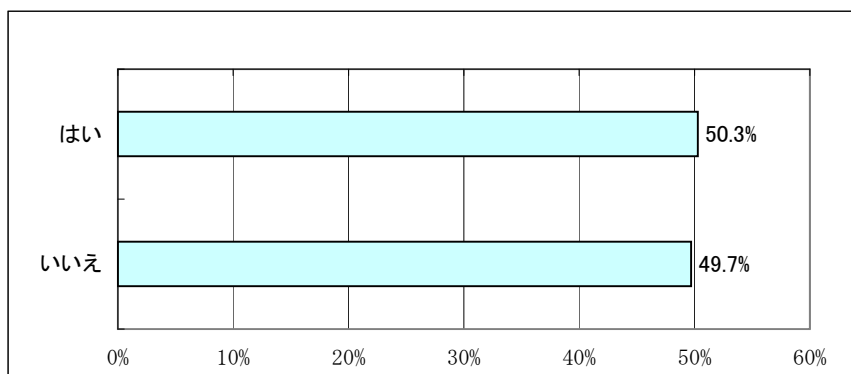
図2-16 震災直後、品物が手に入らず困ったことがあったか



Q2-17 震災直後、普段必要な分以上に買った生活必需物資があるか

震災直後、普段必要な分以上に買った生活必需物資があったかをたずねたところ、「はい」が約5割であった。

図2-17 震災直後、普段必要な分以上に買った生活必需物資があったか



Q2-18 震災直後、普段必要な分以上に買った生活必需物資の品目

Q2-17で普段必要な分以上に買った生活支援物資があると答えた87名の方に、買った品目をたずねたところ、「水」「乾電池」「カップ麺」を5割以上の回答者が挙げていた。

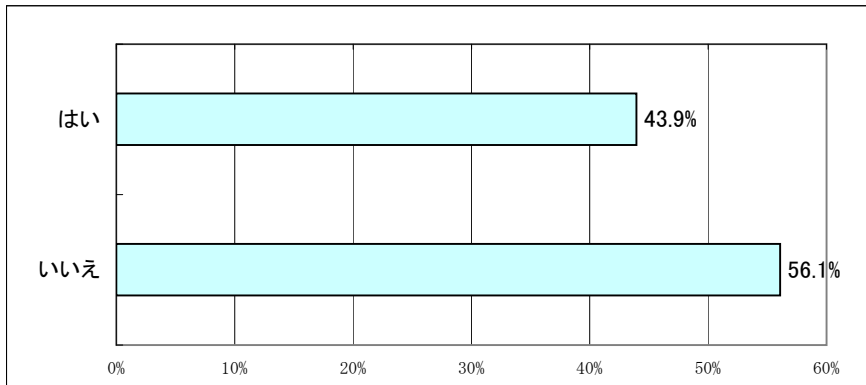
図2-18 震災直後、普段必要な分以上に買った生活必需物資の品目

品物	回答数	%
水	53	60.9%
乾電池	50	57.5%
カップ麺	44	50.6%
トイレットペーパー	28	32.2%
米（おにぎりを除く）	18	20.7%
ガソリン	11	12.6%
パン類	10	11.5%
牛乳	3	3.4%
青果物	1	1.1%
弁当	1	1.1%
魚介類	0	0.0%
肉類	0	0.0%
おにぎり	0	0.0%
その他	6	6.9%

Q2-19 震災後、値段が上がったと実感した品物

震災後、値段が上がったと実感した品物があるかをたずねたところ、「はい」が4割台であった。
内容について自由回答を求めたところ「水」「乳製品」「ガソリン」「野菜」「食品全般」などの回答が多く得られた。

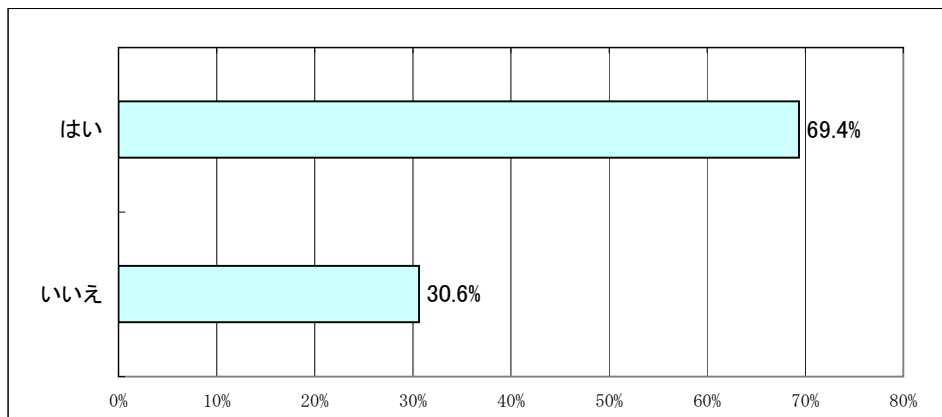
図2-19 震災後、値段が上がったと実感した品物があったか



Q2-20 震災後、暮らしの意識やスタイルが変わったと感じる点があるか

震災から現在までで、暮らしの意識やスタイルが変わったと感じる点があるかをたずねたところ、「はい」が約7割であった。
内容について自由回答を求めたところ「節電を心がけるようになった」「不要なものは買わないようになった」「食の安全を意識するようになった」「防災意識が高まった」「家族との時間を大切にするようになった」などの回答が多く得られた。

図2-20 震災後、暮らしの意識やスタイルが値段が変わったと感じる点があるか



Q2-21 「暮らしむき」や「物価と家計」に関して

「暮らしむき」や「物価と家計」について日頃感じていることを聞いたところ、以下のとおりであった。（自由記入、抜粋・要約）

【物価全般】

- * 物価が震災後特に上がっており、家計に響いている
- * 収入が変わっていない分、物価が上がっていると感じる
- * 物が安くなりすぎる。デフレであり、労働賃金も安くなる。
- * 他の国と比べて、何でも高く、お金がないと生活がしづらい

【食費】

- * 震災後、産地を気にするようになり食費が増えた
- * 食費が高い

【家計】

- * 給料は変わらず物価が上がるので苦しい
- * 特に変化はなし。今までどおりの生活
- * 生活が本当に困っている人は少ない。何もかも贅沢にせずどれかで贅沢気分を

【節約】

- * 賢く購入時に選別すれば割安感が得られると思う
- * 必要なものだけを買うようにした
- * 震災後の消費を盛り上げていかなければ更に悪化する
- * 無駄な支出を抑えて、多少の不便を我慢するようになった

【生活不安】

- * 給料減、物価高の上、増税されたらどうなるか
- * 年金の減額が実施されたらどうなるか
- * 安心で安全な暮らしを望む
- * 社会保障、原発の影響とよい将来が見えない
- * 将来の不安はあるが、なんとかなると思っている

【子育て支援・教育】

- * 今の生活への不安から子どもに期待して教育費が嵩む
- * 暮らしが楽ではない、教育費は相当な金額がかかりストレスを感じている
- * 今のところ不満はないが将来の教育費等が不安
- * 学校で子どもにかかる費用も支援する体制があったほうが子育てしやすい社会に

【医療費・健康】

- * 子ども向けのワクチンへの助成を強化してほしい

【税金・社会保険料】

- * 消費税アップは容認できない
- * 税金の無駄遣いに真剣に取り組んでほしい
- * 税金が下がらないと生活が貧窮する
- * 生活が苦しいので税金は上げないでほしい

【不景気】

- * なんとか景気回復してほしい

* 正社員の雇用率が上がればもう少し消費し、社会が活性化すると思う

【ライフスタイル・価値観の変化】

* 被災地の人々のことを思えば、今までと変わらない生活が出来ているだけでも贅沢だと思っている
* 物があふれていて豊かだと、不必要なことにお金や資源を使っていると、震災を通じて感じた

* 震災後、さらに皆が消費を控えるようになったと感じる
* 今まで日本全体がいかに贅沢にしていたかわかったように思う

【政治・行政】

* 食品に対する偽造表示が多く、行政が取り締まるべき
* 政治家が国民の実生活の視点で議論していない
* 公務員の無駄を見直すべき
* 県のレベルでやれることをやってほしい

【格差社会】

* 年金生活者は苦しい
* 若い人達も格差あり、自分の生活でめいっぱいだと結婚まで踏み切れない
* 震災時に過剰な買占めができる人とできない人がおり、購入できる量、質に差が出るようことに疑問

【その他】

* 想定外の災害に備える自覚・準備が大事
* 世の中は使い捨てのものであふれている、ごみになる商品は買わないようにしている
* 資源を大事に感謝して生活していく